

● 旧軍港引込線北吸隧道



明治37年に軍港と駅をつなぐトンネルとして造られた。現在は自転車・歩行者道として利用している。

● 旧舞鶴鎮守府司令長官官舎



明治34年に建てられた和洋折衷の木造建築。現在も海上自衛隊の会議所として使用されている。

● 舞鶴鎮守府島嶼施設



無人島「蛇島」に大正11年に建てられた海軍の燃料庫。れんがとコンクリート造りのトンネルが残っている。

● 舞鶴旧鎮守府倉庫施設



明治35年〜大正7年に建てられた軍需品などの保管庫。現在は博物館やイベント会場として活用している。

● 旧北吸浄水場配水池



明治34年に建てられた水道施設。よどみなく水を循環・貯蔵する高さ5.6メートルのレンガの壁がある。

● 旧国鉄小浜線松尾寺停車場



大正11年の鉄道開通に合わせて建てられた駅舎。開業当時の姿が今も残り、国登録有形文化財でもある。

日本遺産鎮守府（舞鶴）の 主な6つの構成文化財



大和ミュージアム（呉市）

赤れんがパーク（舞鶴市）

日本遺産認定 10周年

（日本近代化の躍動を体感できるまち・舞鶴）

猿島（横須賀市）

針尾送信所針尾無線塔（佐世保市）

私たちが暮らす舞鶴市には、赤れんが倉庫など、海軍の拠点「鎮守府」が置かれた当時の面影が今も残っています。

舞鶴は、同じく海軍のまちとして歩んだ横須賀・呉・佐世保とともに「旧軍港四市」と呼ばれています。この4市が歩んだ歴史は平成28年度に「日本遺産」に認定され、今年10周年を迎えました。

今回は、日本遺産「鎮守府」のストーリーと認定後に4市が連携して進めてきた歩みを紹介いたします。

日本遺産とは

平成27年度に始まった文化庁の制度で、最大の特徴は、一つひとつの文化財を個別に認めるのではなく、地域に点在するさまざまな歴史や文化を一つの「ストーリー」として、まとめて認定する点です。

古い街並みや伝統芸能、

食文化といったさまざまな要素を一つの物語として紡いで発信することで、地域を活性化し、まちの誇りを未来へつなぐことを目指しています。

また、複数の自治体が協力して共通のテーマを掲げる「シリアル型（地域連携型）」という認定方法があり、旧軍港四市もこの形で認定を受けています。

「鎮守府」のストーリー

旧軍港四市は「鎮守府横須賀・呉・佐世保・舞鶴」日本近代化の躍動を体感できるまち」というストーリーで日本遺産に認定されています。

明治時代の日本は、国の守りを固めるため、山に囲まれ、波が穏やかで大型船が入りできる4つの港に、海軍の拠点「鎮守府」を設置しました。これを機に、当時の最先端の造船や土木、建築の技術が集まり、港灣施設その他、水道・鉄道などの都市基盤の整備が急

速に進みます。

こうして4市は、日本の近代化とともに発展を遂げてきました。

今もなお、赤れんが倉庫や港の風景からは、色あせない日本近代化の躍動を感じ取ることができます。

認定後の4市の歩み

海軍のまちとして歴史を共にしてきた4市は、認定後さらに連携を深めてきました。この10年間、自治体の枠を越えて、ガイドの育成や市民交流、民間企業や大学・高専と協力した特産品開発・学術研究などを着実に展開しています。

こうした継続的な活動が評価され、令和7年度に手厚い支援を受けられる「重点支援地域」にも選定されました。

今後も先人から受け継いだ歴史遺産を次世代へ引き継ぐとともに、貴重な地域資源としての保存と活用に取り組んでいきます。

鎮守府は、遠く離れた地域の究極のシリアル型日本遺産です。その優れた活動が高く評価され、令和7年度に文化庁から重点支援地域に認定されました。

地域のガイドが他地域の活動を学び研修するガイド交流、4地域の大学・高専など理系の研究者が毎年研究成果を発表する学術交流会、4港で活動する湾内クルーズ会社が、相互の事業連携をする「クルーズサミット」などは、まさにシリアル型日本遺産の先駆的な取り組みです。今後とも、さらなる事業自立を目指した活動を期待します。

文化庁日本遺産審査・評価委員 丁野朗さん

